

石の銀行家や看護師達が出現

1月3日文化の日。玉藻公園西側の緑地帯に先を急ぐ国籍、民族不明の4人の通行人が出現しました。イギリスの著名な現代アート作家ジュリアン・オピー氏の石彫作品です。4人の職業は銀行家、看護師、探偵、弁護士。作者の言葉を借りると「2、3秒後となれば、別の4人であったであろうランダムで偶然的なこれらのスナップショットは」、永遠のものとして刻まれてきた「石彫のもつ恒久的な本質と相対するもの」で、時間を超越したタイムトラベラーのようでもあります。

この作品は「瀬戸の都・高松 石彫トリエンナーレ」が、前身のイベントから数えて10回目となることを記念して、オピー氏に招待作家として制作を依頼し、完成されたものです。オピー氏は実際に高松のまちを見て作品のイメージを練り、ロンドンの街を歩いていた人物の姿を基に、独特の簡略化した造形デザインを施し、さまざまな人が行き交う高松の街を表現しようとしたとのこと。石の通行人は等身大より一回り大きく、地元特産の庵治石のほか大理石や御影石などで作られています。そして、制作は、ほぼすべて地元業者が手掛けました。

オピー氏は、「城と庵治石の山の裾野からほど近い街のダイナミックで歴史的な場所に新作を制作し、設置する機会をいただいたことに大変感謝しております」、そして、「高松市の招待と地域の職人の方々の技術がなければこの作品は到底出来なかったですし、この作品の着想さえ思いつくこともなかった」と振り返り、「根気強く努力してくれた石彫職人の皆様の技術に感謝申し上げます。」と伝えてくれました。

このように著名なアーティストが全面的に信頼して作品制作を任せられるだけの高い技術がこの地に受け継がれていることは、本当にありがたいことだと思います。それは、花崗岩のダイヤモンドと言われる庵治石が産出され、高い志を持った石匠、石工たちがいるからでしょう。後は、この作品が真のパブリックアートとして、市民の皆様に広く受け入れていただけるかどうかです。オピー氏のメッセージは、「何人かの人々がほとんど気かけなかったとしても、少なくとも別の何人かの人々が作品を楽しんでくれることを願っております。」と結ばれていました。